

令和5年度 城山東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

- 心豊かで思いやりのある子（豊かな心）
 - よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）
 - 健康で明るい子（たくましい健やかな体力）
 - 根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）
- 〈スローガン〉 「ふれあい つながり 学び合う 城山東小学校」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために、保護者や地域との連携を図りながら、教職員が協働して、知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。児童と教職員がふれ合う中で、よさを発揮し生き生きとして輝ける学校、つまり、児童にとって「行きたい学校」、保護者にとって「通わせたい学校、教職員にとって「勤めたい学校」を目指す。

- (1) 目指す学校像 … 温かさや活気に満ちた学校、安心・安全な学校、地域とともにある学校
- (2) 目指す児童像 … 心豊かで思いやりのある子、よく考え進んで学ぶ子、健康で明るい子、根気強くがんばる子
- (2) 目指す教職員像 … 人間性豊かで信頼される教職員、児童とともにある教職員、学び続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 豊かな人間形成のため、カリキュラム・マネジメントを進めることにより、教育活動のさらなる質の向上と教育効果の向上を目指す。
- (2) 「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、全ての教育活動を通して、生命と人権を尊重する心や他者への思いやりの心を育む道徳教育を推進する。
- (3) 「よく考え進んで学ぶ子」を育成するため、学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- (4) 「健康で明るい子」を育成するために、健康で安全な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- (5) 「根気強くがんばる子」を育成するため、夢や目標に向かって希望をもち努力させる活動や、学級・学校のために協働する力を育む教育活動を推進する。
- (6) 教職員が、倫理観と使命感をもち、資質・能力向上のために自己研鑽に努め、児童一人一人を大切に教育活動を展開し、誰からも信頼を得られるように努める。
- (7) 教職員が健康でやりがいをもって勤務し、質の高い教育が展開できるように、働き方改革の視点に立ち、職場環境改善の取組を推進する。
- (8) 城山地域学校園と、魅力ある学校づくり地域協議会の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成

《スローガン》みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則並びに学習指導要領、県や市の教育ビジョン等を踏まえ、児童の実態や地域社会の実情に基づき、「人権教育」を基盤に特色ある教育の展開が図れるよう編成する。
- (2) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、心身ともに健康でたくましい児童を育むことを目指して編成する。
- (3) 学習指導要領を踏まえ、教育内容の質的な充実を目指した学習指導を展開し、ICTの活用を図りながら、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた学習指導の充実に努める。
- (4) カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、思考力・表現力と自己有用感を高めるために、各教科・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間・特別活動・外国語活動等の関連を図った教育活動を展開する。特に「大谷プラン」の充実を図り、人や社会と関わる力や表現力を育成する。
- (5) 前年度の評価、児童の実態、社会情勢、地域社会の実情等踏まえ、教育活動に創意工夫を加えて、児童の主体的、実践的活動を十分に生かせるように配慮するとともに、目標の重点化による教育活動の精選を行い、児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し、教育の質の向上を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>(1) 学校運営 ○児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築</p> <p>(2) 学習指導 ○つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成</p> <p>(3) 児童生徒指導 ○人とのかかわりを大切にし、豊かな心を育てようとする子どもの育成</p> <p>(4) 健康（保健安全・食育）・体力 ○自他の生命を大切にし、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成</p>
--

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①発表や挙手の仕方，ノートを取り方等の「学習のきまり」を徹底し，学びに向かう環境を整えるようにする。</p> <p>②「自ら考え学び合う子」を育成するために，ICT 機器を有効に活用したり，「考えるためのヒント（思考のすべ）」を活用したりしながら，主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。</p> <p>③児童の学習意欲を高めるため，教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 A1 ⇒肯定的回答率が児童 88.4%，教職員 78.9%</p> <p>① 学習指導主任が中心となって，「学習のきまり」を守らせる指導を粘り強く行った。</p> <p>②「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習を取り入れる共通実践を行った。</p> <p>③ ICT機器の活用を意図的に設け，効果的に活用し，児童の学習意欲を高めながら授業を展開した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 基本的な学習習慣を確立させるため，授業の受け方やノートの取り方などの指導を継続して行う。</p> <p>②「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習のさらなる充実を図っていく。</p> <p>③ ICT機器の効果的な活用の仕方について，引き続き取り組んでいく。</p>

<p>1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進</p>	<p>A2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①伝え合う力や自己を見つめる力を 養えるよう、「考え、議論する」授業展 開を工夫し、「特別の教科 道徳」の授 業の充実を図る。 ②縦割り班活動や縦割り班清掃など 異年齢との交流を通して、児童の思い やりの心を育む。 ③各学級の「ふれあいコーナー」など を活用し、児童が認め合うことによ り、意欲を高める。 ④全教育活動を通して、人権意識の醸 成を図り、児童一人一人が互いに思い やり、相手の立場に立って物事が考え られるようにする。</p>	<p>【達成状況】 A2⇒肯定的回答率が児童 79.3%，教職 員 84.2% ・具体的な場面について児童全体で共 有する。自画自賛できる場面を作り表現 していくことが必要。 ① 授業参観で道徳を取り入れ充実を 図った。 ② 異年齢との交流を通して、児童の思 いやりの心を育む活動を続けてきた。 ③ ふれあいコーナーを活用し、児童同 士が認め合う環境づくりを行った。 ④ 全教育活動を通して、日々の指導に あたった。 【次年度の方針】 ① 授業参観で道徳を取り入れ充実を 図る。 ② 全職員共通理解のもと、縦割り班活 動やお昼の放送等で、思いやりに関す る賞賛の場を設ける。 ③ ふれあいコーナーを活用し、児童同 士が認め合う環境づくりを行う。 ④ 活動の最後に賞賛するような場の 設定を検討する。</p>
	<p>A3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①キャリア・パスポート等を活用しな がら、学級活動の授業等で学期の始ま りに自分の目標を考えたり、終わりに 自らの成長や変容を振り返る活動を したりする。 ②各教科の授業や各種検定等におい て、児童が目標をもって取り組むこと の大切さに気付かせるとともに、目標 の達成に向けて努力している児童を 賞賛する。</p>	<p>【達成状況】 A3⇒肯定的回答率が児童 83.5%，教職 員 78.9% ① キャリア・パスポートを活用しなが ら、自己の成長や変容を振り返ること ができた。全校生の本年度の目標が分 かるよう掲示物を工夫した。 ② 体力アップタイムを長縄集会と し、児童が興味をもって取り組める よう工夫した。 【次年度の方針】 ① キャリア・パスポートを有効に活用 しながら継続して実施していく。「今 年の目当て」を掲示する。 ② 児童が目標をもって取り組める場 面を意図的に設定していく。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p>	<p>①交通安全教室や自転車免許事業などを通して、登下校指導体制の充実を図るとともに定期的に避難訓練を実施するなど、児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。</p> <p>②学校栄養士が全校で食育指導を行うことで、児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに、積極的な情報発信に努める。</p> <p>③生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。</p> <p>④体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。</p> <p>⑤児童に手洗いや換気など、感染症防止のための行動力を身に付けさせる。</p>	<p>【達成状況】 A 4 ⇒肯定的回答率が児童 90.1%, 保護者 94.7%</p> <p>① 保護者やボランティアと連携し、登下校指導体制を話し合い、交通安全教室を通して、取組の充実を図った。</p> <p>②「食育だより」を毎月発行し、児童の食への関心を高めることができた。</p> <p>③「保健だより」を毎月発行し、健康的な生活についての周知を図った。</p> <p>④ 体力アップタイムでは、児童の運動への関心意欲を高めることができた。</p> <p>⑤ 手洗いやうがいなど、感染症予防のための正しい行動が取れるよう、指導を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 安全な登下校について、自転車のヘルメット着用を呼びかける。</p> <p>② 「食育だより」を毎月発行し、児童の食への関心を高めるていく。</p> <p>③ 生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかけていく。</p> <p>④ 体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。</p> <p>⑤ 感染症予防指導を引き続き行う。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①児童が自分や他者の生き方に関心をもち、未来を切り開いていこうとする態度を育むため、総合的な学習の時間において、キャリア教育の取組として「12歳のハローワーク」を実施する。</p> <p>②係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成する。</p> <p>③児童の創意や提案を生かしながら、協力して生活をよりよくする活動を仕組んでいく。</p>	<p>【達成状況】 A 5 ⇒肯定的回答率が児童 86%, 教職員 84.2%</p> <p>① 12歳のハローワークを実施したことで、児童が職業に興味をもち、他者の発表を聞き、自分の考えを広げることができていた。キャリアパスポートの振り返りで自身の成長を実感していた。</p> <p>② 各委員会が何をできるか考え実行しており、活動が充実していた。</p> <p>③ PTA文化祭では、児童が協力して演技したり、ワークショップをしたりすることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① キャリアパスポートの振り返りで自身の成長を実感させていく。</p> <p>② 係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成していく。</p> <p>③ PTA文化祭では、児童が協力して演技したり、ワークショップをしたりする。</p>

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①児童が英語を使って自分の気持ち や考えなどを伝えることができるよ う、ALTを活用した授業の充実を図 る。 ②児童が英語を使って簡単なコミュ ニケーションができるよう、給食や昼 休みなどにおいてALTと触れ合う 時間を確保する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 A 6⇒肯定的回答率が児童 75.2%, 教職 員 94.7% ① ALT を活用した授業を行った。 ② ALT と触れ合う時間の確保が難し かった。 【次年度の方針】 ① 給食のメニューを月 1 回程度 ALT が放送で紹介するなど、児童が英語と 触れ合える機会を設ける。ALT への働 きかけを工夫する。 教務と連携し、ALT と担任の授業の 打合せ時間を設定し、確保する。 ② ALT と触れ合う時間やALT を生かした 活動について、よりよい取組を検討 する。</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>①宇都宮学副読本や社会科副読本を 活用して、宇都宮の様子や産業を知る 学習を通して、宇都宮の特色やよさにつ いて理解させる。 ②生活科「町たんけん」「大谷プラ ン」等を通して、宇都宮の暮らしを支 える人々について関心を高める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 A 7⇒の肯定的回答率が児童 81.8% ① 5・6年生で、宇都宮学スライド発 表をした。 ②「町たんけん」や「大谷プラン」を通 して、宇都宮（地域）よさについて関 心をもつことができた。 【次年度の方針】 ① 大谷プランを宇都宮学と関連させ ながら取り組んでいく。 ② 自分たちが学習していることが「宇 都宮学」だと意識付けができるよう に、「宇都宮学」のプレートを黒板に 掲示していく。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p>	<p>①情報活用能力の育成を図るため、タ ブレットパソコンや学校図書館を活 用した授業を実施する。 ②読書に関する意識向上のための読 書コーナーの設置等を計画的に行う。 ③授業参観や行事等で家庭との連携 を図り、情報モラル教育を推進してい く。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 A 8⇒肯定的割合が児童 86.0%, 保護者 86.1% ① 授業の中での 1 人 1 台端末が日常 化しつつある。学年によって端末の活 用に差がある。 ② 図書館司書員と協力し、児童会活動 や読み聞かせなど学校の教育活動に 活用している。 ③ 学校 HP を通して、教育活動の発信 を行ったため保護者からの肯定的割 合が増加した。 【次年度の方針】 ① 学年での到達目標を明確化し、活 用を継続していく。 ② 読書に関する意識向上のための読 書コーナーの設置等を計画的に行う。 ③ 情報モラル教育及びデジタルシテ ィズンシップ教育を実施していく。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p>	<p>①持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施する。 ②避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせる。 ③生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図る。 ④ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識を持たせる。</p>	<p>【達成状況】 A9⇒肯定的回答率が児童 87.6%，教職員 52.6% ① 持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施した。 ② 避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心をもたせることができた。 ③ 生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図った。 ④ ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識をもたせることができた。 【次年度の方針】 ① 節電、節水、ゴミの分別の取組を周知しながら、PTA や地域協議会と連携し、SDGs を推進する。 ② 児童会を中心に、全児童参加してゴミの分別運動を継続、実施していく。集会などでも、児童が主体的に節電と節水の啓発運動を行うなど、SDGs の意識付けを図り、持続可能な社会作りに自信がもてるようにする。 ③ スイッチ・水道・牛乳パック用 BOX などに「持続可能な社会のために！SDGs！」のプレートを張ることで意識付けを図る。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>①校内支援委員会を開催し、特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り、指導方法や支援方法について検討する。 ②児童の実態に応じて、かがやきルームにおける指導の充実や、特別支援学級の児童が通常学級へ交流及び共同学習を行うなど、取組の充実を図る。 ③2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。</p>	<p>【達成状況】 A10⇒教職員の肯定的回答率が100% ① 校内支援委員会において情報の共有を図り、共通理解のもと指導にあたることができた。 ② 担任やかがやき担当教員と連携、児童の指導に必要な情報共有を行い、通級や交流を効果的に行った。 ③ 児童への配慮を要する内容や、問題行動などの情報共有を行った。 【次年度の方針】 ① 校内支援委員会において情報の共有を図り、共通理解のもと指導にあたる。 ② 担任やかがやき担当教員と連携、児童の指導に必要な情報共有を行い、通級や交流を行う。 ③ 2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>①全職員が改訂版「本校いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに、言葉によるいじめの未然防止の取組の充実、初期段階からの組織的な対応の徹底など、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。</p> <p>②いじめゼロ強調月間における取組や「いじめ0集会」等の工夫を行うとともに、家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たるとともに、実施前後に学年だより等で情報発信する。</p> <p>③教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。</p>	<p>【達成状況】 A11⇒肯定的回答率が児童 96.7%</p> <p>① 全教職員共通理解のもと、いじめ防止の指導にあたることができた。</p> <p>② いじめ集会・いじめ標語の作成等、児童中心の活動を取り入れて、実施した。</p> <p>③ 教育相談・アンケートによる実態把握とともに、児童指導理解を継続して行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 全教職員共通理解のもと、いじめ防止の指導にあたる。</p> <p>② HP 内のいじめ防止基本方針の見直しを行い、教職員へ周知し、家庭・地域と連携していじめゼロを目指していく。</p> <p>③ 教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①一人一人の力が生かされ、児童相互に認め合う学級経営の充実を図る。</p> <p>②「城山東キラリ賞」や「宮っ子心の教育表彰」を活用しながら、日頃から全教職員による認め励ます教育を推進する。</p> <p>③不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。</p>	<p>【達成状況】 A12⇒肯定的回答率が児童 97.5%、保護者 88.3%</p> <p>① 各学級の「ふれあいコーナー」やあったか言葉に関する掲示物を活用しながら、指導を進めることができた。</p> <p>② 担任以外の教員からの意見も反映させてキラリ賞を決めるなど、児童を認め励ます指導を行った。</p> <p>③ 報・連・相を意識し、全教職員で対象児童に関わることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 各学級の「ふれあいコーナー」やあったか言葉に関する掲示物を活用しながら、指導を進める。</p> <p>② 担任以外の教員からの意見も反映させてキラリ賞を決めるなど、児童を認め励ましていく。</p> <p>③ 不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。</p>

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>①児童同士や教師と児童，地域の人材等の資源を生かした人とのつながりの中で，居がいがもてる学級経営を基盤とし，自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。</p> <p>②「東小タイム」を中心に，担任が児童と共に活動したり，児童会を中心とした活動を計画したりしてよりよい人間関係づくりをする。</p> <p>③縦割り班活動を推進し，児童同士の交流を深める。</p>	<p>【達成状況】 A13⇒肯定的回答率が児童 94.2%，保護者 90.8%</p> <p>① 学級経営を基盤として，学校行事や体験活動等さまざまな場面で児童のよい姿を称賛するなど，自己有用感を高められるような取組を行ってきた。</p> <p>② 業間や昼休みを通して，学級のよりよい人間関係づくりを図ることができた。</p> <p>③ 縦割り班活動では，自由遊びや清掃活動などで，児童同士の交流を深めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 本校の特色である地域の人材等の資源を生かした人とのつながりの中で，達成感や充実感を味わわせる活動の工夫を行い，自己有用感を高められるようにする。</p> <p>② 業間や昼休みでは，担任が児童と共に活動したり，児童会を中心とした活動を計画したりして帰属意識を高める。</p> <p>③ 縦割り班活動の充実を図り，児童同士の交流をさらに深めていく。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう，「<u>◎・㊦・㊧</u>」を用いて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの明確な提示 ・まとめ，振り返り活動の充実 ・学習形態の工夫，個に応じた指導 <p>②「考えるためのヒント（思考のすべ）」などを活用し，思考力・判断力・表現力等の育成を図る。</p> <p>③朝の学習「ぐんぐんタイム」の活性化を図り，家庭学習の課題の工夫などにより，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 A14⇒肯定的回答率が児童 95.0%，保護者 87.5%</p> <p>① 授業において，めあての提示や，まとめ・振り返りの実施など共通理解を図りながら進めた。（<u>宇・はっきり・じっくり・すっきり</u>）</p> <p>②「考えるための技法（思考のすべ）」等を活用し，授業の充実を図ることができた。</p> <p>③ 担任外の教員も朝の学習に参加し，個に応じた指導の充実を図ることができた。また，AIドリルや漢字ドリル，計算ドリル，プリント類を活用し，基礎基本の定着を図った。</p> <p>基礎・基本の確実な定着を目指し，朝の学習「ぐんぐんタイム」の活性化を図り全校体制で充実させた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 引き続き「宇都宮モデル」を活用し「<u>◎・㊦・㊧</u>」を用いて，授業改善に取り組んでいく。</p> <p>② さらに，校内研究を進め，授業の充実を図っていく。</p> <p>③ 「ぐんぐん式」の問題を本校の実態に合わせた問題にし，スムーズに進めるための改善を図る。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>①学校図書館司書、学校栄養職員、学力向上非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。</p> <p>②「チーム城山東」の一員として、報告・連絡・相談を確実に実施するとともに、互いに助け合える雰囲気づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】 A15⇒教職員の肯定的回答率が100%</p> <p>① 全ての教職員が一丸となり、各機関と連携を図りながら、学校経営計画の具現化に向けて、効果的に業務を行うことができた。</p> <p>② 困ったことは相談し合ったり、分からないことは教え合ったり、互いに助け合う雰囲気が醸成された。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>B</p> <p>① 司書、栄養職員、学力向上、かがやき指導員、SC、SSW等と連携・協働しながら効果的に業務を進めていく。</p> <p>② 「チーム城山東」の一員として、互いに助け合える雰囲気づくりに努める。助け合える雰囲気作りに努めていく。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>①学校行事の後には振り返りを実施し、次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに、精選及び校務の効率化により、児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>②出退勤の時間を意識し、効率的な業務遂行に努めるとともに、リフレッシュデイを確実に実施する。</p> <p>③学級支援事務と連携協働しながら、効率的、効果的に業務を進めるように努める。</p>	<p>【達成状況】 A16⇒教職員の肯定的回答率が94.7%</p> <p>① 行事ごとに振り返りを実施し、反省を活かして効率化を図った。</p> <p>② ミラタイムの出退勤打刻等で時間を意識し効率的な業務遂行に努めた。</p> <p>③ 学級事務支援の協力のもと、業務の効率化が図れた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>B</p> <p>① さらに精選及び公務の効率化に努めていく。</p> <p>② 本年度の取り組みを継続しつつ、業務の効率化を図っていく。</p> <p>③ さらに学級事務支援員等との連携し、担任の負担軽減を図っていく。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上</p>	<p>①地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため、各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内の学校で共通した取組を実施する。</p> <p>②あいさつ運動における小中の交流を実施し、情報を発信する。</p> <p>③地域学校園内で授業を公開し、授業の充実や教職員の相互理解を図る。</p>	<p>【達成状況】 A17⇒肯定的回答率が保護者 88.1%、教職員 100%</p> <p>① 地域学校園各部会等で連携し、共通の取組を行った。</p> <p>② 小・中学校間の交流を行い、学校便りやホームページなどで発信できた。</p> <p>③ 中学校の合唱コンクールを参観したり、中学校からの乗り入れ授業を行ったりした。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>A</p> <p>① 各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内で共通した取組を実施する。お昼の放送等で賞賛していく。</p> <p>② あいさつ運動において、小中の交流を実施する等して情報を発信したり、家庭でのあいさつの様子を情報交換したりしていく。</p> <p>② 地域学校園内学校の教職員の相互理解を図り、授業や研修の充実に努めていく。</p>

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p>	<p>①地域の方々、学習ボランティアとの交流や、企業及び関係諸機関と連携した授業を、各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣旨を生かしたボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。</p> <p>②「地域とともにある学校」の具現化を図るため、家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに、情報を積極的に発信する。</p> <p>③校外学習、地域とのふれあい学習、農園活動、教科等（生活科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間）などにおいて、地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。</p>	<p>【達成状況】 A18⇒肯定的回答率が児童 89.3%、保護者 86.9%</p> <p>① 地域コーディネーターと連携・協力し、学習ボランティアの充実を図った。また企業等と関わった学習を充実させることができた。</p> <p>② 地域協議会委員やPTA役員とともに会議や行事の検討を行い、状況に応じた対応を行った。</p> <p>③ 地域人材・施設・文化財を積極的に活用できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① ボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。</p> <p>② 地域協議会やPTAの意見を参考にして、学校運営に生かしていく。</p> <p>③ 校外学習、農園活動、教科等において、地域人材・施設・文化財を積極的に活用していく。</p>
<p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p>		
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域 85%以上</p>	<p>①児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備、器具・用具などの定期的な安全点検を実施し、安全で快適な学校づくりに努める。</p> <p>②運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。</p>	<p>【達成状況】 A19⇒肯定的回答率が保護者 83.6%、地域 88.0%</p> <p>① 定期的に点検を実施し、安全を確保することができた。</p> <p>② 学校利用団体が体育館や校庭を快適に使用できるよう、調整を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 運動会等の学校行事やPTA文化祭など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。</p> <p>② 運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①一人一台端末操作のスキルアップを図って、有効に活用しながら、思考力・表現力の向上に努める。</p> <p>②学校図書館において、学習センター、情報センターとして、授業の目的にあった図書資料が検索できる環境を整備する。</p>	<p>【達成状況】 A20⇒教職員の肯定的回答率が100.0%</p> <p>① 1人1台端末が、有効活用できるよう、環境は整っている。教職員においては授業で積極的に活用している場面が多く見られた。学習活動に活用できるツールが増えており、職員研修を通して、スキルアップを図った。</p> <p>② 授業で活用しやすいよう、図書資料を整理し、環境整備に努めた。教育センターの書籍を利用できる環境も整備された。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 一人一台端末が教育活動で効果的に運用されるよう、環境の整備（ICT支援員との連携、機器保守など）に取り組む。また、教職員での情報共有を行い、有効な活用方法や、使用上の課題の解消に努めたい。</p> <p>② 学校図書館において、授業の目的にあった図書資料が検索できる環境を整備する。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①継続的な指導に加え、PTA、「地域協議会」と連携し、「大人から進んであいさつする」活動呼びかける。 ②長期休業明けに代表委員を中心にしたあいさつ運動を実施し、振り返りを家庭と共有する。 ③下校時の一斉あいさつを高学年主導で行うことで、あいさつの意識付けを図る。</p>	<p>【達成状況】 B1⇒肯定的回答率が児童 89.3%、保護者 74.1% ① ホームページ等であいさつへの取組を発信したり、教職員からあいさつを呼び掛けたりしてきた。 ② あいさつ運動を実施した際は、振り返りを家庭と共有した。 ③ 一斉あいさつを実施した。 【次年度の方針】 ① PTA、地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動の継続していく。 ② よくあいさつした児童を賞賛する取組を継続しながら、あいさつ運動の充実を図る。 ③ 一斉あいさつを継続して実施し、家庭でも大人からあいさつをし、児童が常にあいさつができるよう、保護者に呼び掛けていく。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>① 生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、生活当番活動等を行い、具体的な改善に向けて連携して取り組む。 ②月の目標に基づき各学級で生活目標を考え、朝の会や帰りの会等で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高める。</p>	<p>【達成状況】 B2⇒肯定的回答率が児童 87.6%、保護者 91.0% ①「よい子のやくそく」を元に、指導を徹底した。 ② 児童指導を中心に、目標の反省や改善点などを話し合った。 【次年度の方針】 ① きまりについての疑問や確認したい事柄が生じた場合は、共通理解をして進める。 ② 指導の一般化を図るため生活目標を朝や帰りの会でふれ、全職員共通理解のもと指導にあたる。</p>
本校の特色・課題等	<p>B3 児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①読書の時間や定期的なボランティアによる読み聞かせ、ビブリオバトルなどにより、読書に対する興味関心を高める。 ②市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。</p>	<p>【達成状況】 B3⇒肯定的回答率が児童 85.1%、保護者 74.1% ① ボランティア・教職員による読み聞かせやビブリオバトルカードコンテストなどの取組により、読書に対する興味・関心を高めることができた。 ② 家読の推進など、家庭との連携を図りながら指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 ① 児童が様々なジャンルの本に親しむことができるよう、推進する。また読書の取組についての周知を図る。 ② 長期休みの家読を継続するなど、引き続き家庭との連携を図る。</p>

<p>B4 学校は、校内研修やOJTによる実践的な学びを推進し、指導力の向上につなげている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>①OJTによる実践的な学びを推進し、授業力の向上に努める。</p> <p>②教育専門職にふさわしい資質・能力の向上のために、学校課題に基づき研究テーマを決めて共通実践を進め、校内研修の計画的な実施と自己研鑽に努める。</p> <p>③外部講師等を活用した教職員研修を実施するなど、教員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 B4⇒教職員の肯定的回答率が100.0%</p> <p>① 校内研修計画に基づき、計画的に学ぶ機会を設けた。また、日々の授業内容や学級経営等について、アドバイスを受けたり会話を通して学んだりしていた。</p> <p>② 「1人1授業」の取組では、教員間で授業を見せ合い、自分の考えを表現できる授業展開の工夫について研究を進めた。授業の進め方等、情報交換ができた。</p> <p>③ 研究授業では、要請訪問の講師の方々の指導のもと、充実した研修を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 学校課題に基づき、研究テーマを設定し、共通実践を進めていく。</p> <p>② 学校課題に基づき研究テーマを決めて共通実践を進め、校内研修の計画的な実施と自己研鑽に努める。</p> <p>③ 外部講師等を活用した教職員研修を実施するなど、教員の指導力の向上に努める。</p>
<p>B5 教職員は「予防的対応」「対処的対応」など、危機管理に努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・教職員 85%以上</p>	<p>①緊急時の対応、日常の安全管理等、危機管理についてマニュアルに基づき、教職員が緊急時すぐに対応できるようにするとともに、随時、マニュアルの点検、見直しを行う。</p> <p>②予防的対応の充実を図るため、全教職員の危機管理意識の高揚を図り、危機管理に関する情報交換を日常的に行う。</p> <p>③必要に応じて「日々の記録」に記録し、確実に引継ぎを行う。</p>	<p>【達成状況】 B5⇒肯定的回答率が保護者 90.9%、教職員 100.0%</p> <p>① 危機管理マニュアルに基づき、緊急時の対応に備えることができた。</p> <p>② 危機管理意識の高揚を図るため、コンプライアンス遵守に係る研修を行った。</p> <p>③ 予防的、対処的対応事項を、「日々の記録」に記録して引継ぎできた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 危機管理マニュアルに基づき、緊急時の対応に備えていく。</p> <p>② 日常的に情報交換を行っていく。</p> <p>③ 「日々の記録」に記録し、確実に引継ぎを行う。</p>
<p>B6 教職員は、児童理解を基盤に学級経営の充実を図り、学級内の人間関係づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p>	<p>①Q-Uテスト等を有効活用し、児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。</p> <p>②各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。</p> <p>③互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。</p> <p>④児童のよさや成長など、小さな気付きを保護者に伝える。</p>	<p>【達成状況】 B6⇒肯定的回答率が児童 90.9%、保護者 87.3%</p> <p>① 教員間の情報交換をもとに、児童理解に努め、学級経営の充実に努めた。</p> <p>② 「ふれあいコーナー」で児童の良さを認めあうことができた。</p> <p>③ 教室掲示のありがたうの木など、励まし合いや温かな言葉に触れる場面を設けた。</p> <p>④ 保護者との連絡を密にし、情報の共有に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① Q-Uテスト等を有効活用し、児童理解と居がいのある学級づくりを目指していく。</p> <p>②各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。</p> <p>③互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。</p> <p>④児童のよさや成長など、小さな気付きを保護者に伝える。</p>

	<p>B7 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85% 以上</p>	<p>①授業や学校行事で児童に高齢者や学校支援ボランティアとかかわらせることにより、感謝の気持ちをもたせる。</p> <p>②総合的な学習の時間において、福祉教育の取組として、高齢者福祉施設の訪問などを実施する。</p>	<p>【達成状況】 B7⇒肯定的回答率が児童 94.2%，保護者 96.1%</p> <p>①「感謝の会」において、ボランティアの方々に関して感謝の気持ちをもたせることができた。</p> <p>② 総合的な学習の時間における高齢者福祉施設訪問は実施し、高齢者と交流を図った。</p> <p>【次年度の方針】 ① ボランティアへの感謝の気持ちを育まれるよう支援をする。 ② 高齢者福祉施設の訪問など、実施の方向で進めていく。</p>
--	--	--	---

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【全体的な傾向】

14評価項目（全27評価項目）については、すべての評価対象において85%以上の結果を得た。

10評価項目において肯定的回答が80%未満となっている評価対象がある。

【目指す児童の姿】

- ・ A4「健康や安全に気を付けて生活している」については、児童90.1%、教職員94.7%、保護者88.6%、地域100%と高評価であった。教職員全員で、健康で安全に生活できるよう児童に指導したり、保護者に便り等で呼びかけたりしたことの成果であると考えられる。
- ・ A14「きめ細やかな指導と学力向上」については、児童95.0%、教職員100%、（6.7ポイントアップ）保護者87.5%と高評価であった。児童が「分かる」「できる」「楽しい」など実感でき学習意欲が高まる授業や基礎基本定着のために自力解決と学び合いを組み合わせた授業改善等に教職員が積極的に取り組んだ成果であると考えられる。
- ・ B7「高齢者やボランティアさんへの感謝」については、児童94.2%、教職員94.7%、保護者96.1%と高評価であった。授業や学校行事で児童が高齢者や学校支援ボランティアと関わることが多く、感謝の気持ちをもたせたことが成果に現れたと考えられる。

【目指す学校の姿】

- ・ A12「不登校を生まない学級経営を行っている」については、児童97.5%、教職員94.7%、保護者88.3%と高評価であった。不登校傾向児童に該当する担任等も含め全職員が組織的に早期対応したり、児童一人一人の居がいのある学級づくりに努めながら、児童の良さを認め褒める指導を続けたりした成果が現れている。
- ・ A17「学校は明るくいそいそとした雰囲気」については、児童94.2%、教職員100%、保護者90.8%（1.7ポイントアップ）、地域86.4%と高評価であった。教職員が協働して、児童に意欲と自信をもたせ、温かさや活気に満ちた教育活動を展開してきたことと学校行事や各教科の学習活動がコロナ禍以前の活動内容に戻ったことが成果に現れたと考えられる。今後も思いやりの心を育み、活力ある学校づくりの推進を図っていきたい。

【本校の特色・課題】

- ・ A1「主体的に学習に取り組む」については、児童88.4%、教職員78.9%、保護者79.5%である。質問内容「進んで学習に取り組む。」が「他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組む。」に変更になったことで、評価の判断基準が高くなったことが一要因に挙げられる。今後も、児童が考える時間や学び合う時間を保障し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等に取り組む必要がある。
- ・ A3「目標に向かってあきらめずに取り組む」については、保護者73.1（9.7ポイントアップ）に対し、児童83.5%（6.2ポイントダウン）、教職員78.9%（7.8ポイントダウン）である。キャリア教育の一層の充実が課題である。
- ・ B1「時と場に応じたあいさつ」については、児童89.3%、教職員68.4%（24.9ポイントダウン）、保護者74.1%である。今後も家庭や地域と連携しながら、挨拶を呼び掛けることの重要性について共通理解をし、取組の充実を図る必要がある。

7 学校関係者評価

【学校が行った自己評価について】

- ・学校が分析した評価は適切である。全体的に昨年度より、評価が上がっている項目が多いので、次年度も今年度同様の取組を継続してもらいたい。また、結果の値にとらわれずに関係者が一体となり取り組むべきである。(多数)
- ・児童、保護者、地域住民については、肯定的回答の割合が高くなっている項目が多く、良い結果となっている。しかし、教職員については、肯定的回答が上がっている項目が4に対して、下がっている項目が10となっており、今後の取組の工夫が必要である。児童と教職員の肯定的回答の割合が高いものでも、保護者が低いものもあり、学校の取組を保護者に伝える工夫が必要である。また、児童、保護者にアンケートの質問内容を理解させ、回答してもらうのも大切である。
- ・いじめや不登校を生まない学級づくりに関して、児童の肯定的回答が高く、児童が仲良く居心地のいい学校生活を送れている。しかし、この項目は、評価対象者の中で児童が一番高くないと目標達成とは言えないので、さらに指導の工夫が必要である。
- ・自主的にあいさつができる児童を育てることは重要であるので、あいさつ運動を、学校が家庭や地域と一層協力・連携して取り組むべきである。ボランティアが充実している状況なので、さらに保護者や近隣の方々等へあいさつするよう発信できるとよい。
- ・時間を取るのには難しいが、宇都宮の地域の良さについても知る機会を増やしていくと良い。また、宇都宮の良さを知る機会として、大谷プラン等を実施しているが、親子で作業する時間を確保していくと保護者まで浸透させることができる。
- ・児童が、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組むことが最重要課題である。また、中学校、高校とキャリアを積んでいくことが必要不可欠である。評価が上がるよう、取組を工夫してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【学校運営】

今年度、「児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築」の重点目標のもと、地域との連携を図りながら、地域とともにある学校を目指して教育課程を進めた。次年度も継続して、児童が主体的に活躍する場を意図的に設けたり、活動内容の意義を児童に理解させたりして、地域の協力を得て、開かれた教育課程を実施していく。そして、児童一人一人の居がいのある学級づくりに努めながら、児童の良さを認め褒める指導を続けたり、日々の教育活動をHPや便り等で紹介・公開したりしていき、魅力あふれる学校づくりに努めていきたい。

【学習指導】

「つながりの中で、自ら考え学び合う子供の育成」の重点目標のもと、めあての共有と言語による振り返りを重視し、「分かる」「できる」「楽しい」等を実感させる授業の展開を工夫したり、基礎基本の確実な定着を目指し、「ぐんぐんタイム」での個に応じた指導の充実を図ったりしてきた。さらに、次年度も、「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習のさらなる充実を図っていく。また、1人1台端末等の効果的な活用について、さらに研究を深め、個別最適な学びの充実を目指して、教師が授業内容の工夫に取り組み、授業力向上に努めていきたい。

【児童生徒指導】

「人とのかかわりを大切に、豊かな心を育てようとする児童の育成」の重点目標のもと、「あ：挨拶・じ：時間・あ：あったか言葉」→「あ・じ・あ」を合言葉として、あいさつ運動や学級活動等で指導してきた。また、学校行事や特別活動等で自己有用感を高めたり、様々な人との関わりを通じた体験活動で他者を思いやる豊かな心を育むことができたりした。今後も、地域や保護者と連携しながら、「進んで挨拶のできる児童」「思いやりの心の育成」に注力し、児童理解に努め温かい環境づくりに努めていきたい。

【健康（体力）・保健・食・安全】

「自他の生命を大切に、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成」の重点目標のもと、自らの自身の健康を維持するため正しい判断力と行動力を身に付けられるよう指導の充実を図ってきた。今後も、避難訓練や登下校指導等で危機管理意識の高揚を図ったり、体力アップタイムで運動への関心を高めたり、食育・保健指導の充実を図ったりするなど、健康への関心を高め、体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成に努めていきたい。